

## 塾長の独り言 NO 164 H 24. 9. 19

### 「中国 韓国とどう付き合いするか？」

日韓の竹島、日中の尖閣問題がここ数日の話題となっておりますね。

日本として、隣国の韓国、および中国とどう付き合いしていくのか？が重要になってきましたね。

ドラッカー著書には意思決定の項目にこんなことが書いております。

意思決定の力点をどこに置くか (150p)

欧米では、力点を問題に対する答えに置く。

ところが日本では、意思決定で重要なことは問題を明らかにすることである。

ポイントは問題を明確 (問題に対する見解) にすることがスタートです。

問題に対する答えは人によって違う。問題の認識の違いが、答えの違いをもたらす。

したがって、どのような認識の仕方があるかを明らかにすることが、効果的な意思決定の第 1 歩となる。

**間違った問題に対する正しい答えほど、実りが無いだけでなく害を与えるものはない」**

ドラッカーは凄いですね。本質をズバリと突いてきますね。

今回の反日運動も同じだと感じます。

愛国教育 (長期的・大局的視点で見ると間違った歴史観) によるナショナルリズム

差別感 (政治的・身分的不平等感) による抑圧からの発散

など。

中国のように共産党一党支配という政治 (経済) と宗教が分離していないと、根本的に同じ問題が常に起きます。

韓国も基本的には同じ問題でしょう。

では、どうすればいいのか？

この答えは、『行動すべきか否か』に書いています。

行動した時のコスト(リスク)と行動しない時のコスト(リスク)を比較する。

公式はない。

つまりはカントリーリスクです。

今、中国では、日本企業向けに通関業務を意図的に遅らせていることや日本企業にターゲットに絞って意図的な税務調査をやって、企業活動を妨害しています。

私個人的には、一番卑怯だし、許せないことだと感じます。

中国、韓国というカントリーリスク。

企業人として、日本人として、考えるきっかけとなりました。

日本人として世界で経済活動するには、カントリーリスクを一番に考える時期かもしれません。

### <コメント>

**仲直りは出来ないが、仲よくする必要はある」有名な話ですが、明治維新から100年以上経つが、いまだに会津は長州を許せないと言われていました。**

**同じ日本人でさえ、歴史観からするとこんな問題があります。**

**又、生まれ持って差別されていて、どんなに頑張っても努力は報われないとしたらどうでしょうか？**

**そのエネルギーはどこに行くのか？破壊的暴力にいくキッカケになりますね。**